

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の申請主体の名称

飛騨市

2 地域再生計画の名称

地下空間活用地域まるごと再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定の日から10年間（平成26年度目標）

4 地域再生計画の意義及び目標

（1）地域再生計画策定の意義

飛騨市は、岐阜県の最北端に位置し、北は富山県富山市、南東は平成17年2月の市町村合併により日本一の面積を誇ることとなる高山市、西は世界遺産・合掌の里白川村に接している。

県都岐阜市から約150kmの位置にあり、JR高山線で2時間10分、東海北陸自動車道・飛騨清見IC及び主要地方道を経由して1時間50分、また富山空港から1時間10分の位置にある。

飛騨市は、古くから地理的・歴史的背景をはじめ、経済・文化・生活面において緊密な結びつきを有してきた吉城郡内4町村が合併し、平成16年2月に新たな一步を踏み出したところである。

飛騨市が合併した理念の中で特筆すべき点は、地方行政を取り巻く環境が厳しさを増すなかで、少子高齢社会や過疎化に対応するとともに、足腰の強い自主自立した自治体を目指すため、今までの既成概念や既得権を捨て、4地域が対等互助の精神で合併を進めたところである。

飛騨市には、世界に誇るスーパーカミオカンデ、守り続けてきた豊かな自然環境、匠の文化や歴史的街並み、祭と伝統産業、そしてふるさとを愛する市民の心など、物心両面での豊富な地域資源が残っている。

新しいまちづくり創造のため、これらの優れた資源を一体化、融合させながら、すみやかに総合力の発揮できるまちづくりを進め、誰もが、豊かでいきいきと暮らせる生活環境づくりを市民と行政が協働して創造していくために、「飛騨文化の徹底した追求と新たな創造」「挑戦的かつ戦略的なまちづくり」「みんなで創るやさしい自立の仕組みづくり」の

3つの基本理念を掲げ、あらゆる施策に反映している。

・飛騨文化の徹底した追求と新たな創造を行うまちづくり

匠の技や伝統芸能、生活様式など歴史の中で脈々と受け継がれてきた個性豊かな飛騨文化の価値をあらためて認識すると共に、徹底的に追求した本物の飛騨文化を継承していく。

また、歴史のなかで受け継がれてきた伝統的な文化と現代社会の中で新しく創造される文化を融合させ、伝統文化を基盤としながらも最先端の知識と発想と技術を取り入れた新しい飛騨文化を育て、国内外に向けて発信できるまちづくりを推進していく。

・挑戦的かつ戦略的なまちづくり

地方分権の進展や右肩下がりの厳しい社会経済環境に対応するためには、戦略的かつ計画的な行政運営が必要である。

今後の地域振興においては、都市住民の本物志向に応えられる地域の魅力の創造や飛騨市でしか得られない「もの」、資源を最大限活かせる新産業づくりなど自分達で創意工夫を凝らし、意欲的に挑戦していく積極果敢なまちづくりを推進していく。

・みんなで創るやさしい自立の仕組みづくり

まちづくりの基本は、自主・自立、住民主体・市民参加であり、飛騨市の主役である市民自身が、ふるさとへの愛着と連帯感を持ちながら、それぞれの立場でまちづくりに参画する地域社会を創造していく。

そして自立した市民と行政が良きパートナーとして連携し、英知と力を結集しながら目標の達成に向けて一体となって進み、自主自立のまちづくりを推進していく。

この3つの基本理念のもと、飛騨市の地域経済の活性化と地域雇用の創造のためには、地域固有の資源と今後の発展が期待できる可能性のある資源を新たな視点で掘り起こし、それを全市的に有機的に結びつけ、新たなアイデアを付加して質的向上を図る基盤をつくり、地域再生の支援措置を活用しながら、地域経済の活性化や暮らしやすい地域社会を目指し、自主・自立のできる「飛騨市のまちづくり」の構築を目指すものである。

(2) 地域再生計画の目標

飛騨市には、スーパーカミオカンデに象徴される日本一強固な岩盤に支えられる壮大な地下空間と優れた掘削技術がある。また、宮川町地域に残る日本の原風景とも言える棚田と板倉群、そして今もなお手つかずで残る三地域の湿原、古川町地域の町並み景観など他では例を見ない特色ある資源を最大限活用して『情報』『学習』『交流』を柱とするプロジェクトを総合的に推進することにより、飛騨市の再生・活性化を図る。

「情報」では、予期せぬ災害からの危機回避を目的として企業や自治体が抱える膨大なデータの「バックアップセンター」の整備を進め、「学習」では、世界最先端の科学者が集積する知的財産を活用した「自然科学体験学習施設」の整備を進め、「交流」では文化遺産・石積みの棚田と板倉の保存整備を進めることにより、3つの異なる顔を持つ湿原回遊、匠と伝統文化に培われた歴史空間を有機的に回遊することが体験できる「本物の癒し空間」の創出を図るものである。

この3つの柱を核として、飛騨市の資源を総合的にリンクさせることにより飛騨市域全体を『科学と文化と交流のまち』として整備するとともに、人的・物的・経済的な社会貢献を図っていくものである。

(3) 地域再生計画による支援措置を活用した方策

地下空間を活用する「危機回避のための情報データバックアップセンター」の整備

飛騨片麻岩という日本一強固な岩盤に支えられた総延長1000キロにおよぶ坑道と壮大な地下空間、長年の神岡鉱山開発で培われた優れた掘削技術という貴重な財産を持ち、地震をはじめとする大災害に強く、また地下空間が持つ遮蔽性、恒温性、恒湿性、長期安定性の利点を活かし、世界中の企業や国家機関・省庁、全国の自治体が抱える膨大な「危機回避のための情報データバックアップセンター」を24時間フルタイム稼働の施設として民間資本で建設することを検討している。

情報インフラは、主要都市圏から大容量の光ファイバーケーブルを敷設してリアルタイムでの情報の預け入れ機能と引き出し機能を連結する。

この計画により飛騨市神岡町栃洞坑の地下空間は、世界に類を見な

い「危機回避情報集積管理のまち」として再生するものである。

しかし、地下空間の活用という事例のあまりない事業ということもあり、各分野での調整すべき課題の解決がハードルとなっている。そのため「特定地域プロジェクトチーム」を設置することにより円滑な事業実施の実現をめざす。

世界を担う創造力あふれた青少年の夢を育む自然科学体験学習施設の整備

宇宙を切り口とする自然科学教育という日本には例の無い総合的な体験・学習の場としての魅力を持つ「宇宙に視野を広げ自然科学を体験できる施設」の整備を検討している。

東京大学をはじめとする世界の科学者の頭脳が集積する知的財産を活かした自然科学・基礎科学・基礎物理学のメッカとすることで、近年の理科離れから来る科学・技術力の低下に対して、青少年のみならずすべての人々が親しみを持って科学に接することができ、多様な個性に合わせた科学への興味と理解を深めることで優秀な人材を発掘できると共に、青少年に夢を与え、世界の最先端科学技術の発展に貢献する若い芽を育てることが可能となる。

自然科学体験学習施設で期待できる効果は、「自然科学・基礎科学・基礎物理学知識の涵養」、「参加体験学習による能動的知識の涵養」、「プログラムに対応する危機管理能力と忍耐力、協調精神の涵養」であり、この計画により飛騨市神岡町栃洞坑の地下空間は、「自然科学教育最先端のまち」として再生をめざす。

しかし、この事業でも壮大な地下空間の活用が不可欠であり各分野での調整すべき課題の解決がハードルとなっている。そのうえで、「特定地域プロジェクトチームの設置」の支援措置を活用し、各省庁の情報提供や指導を受け、円滑な事業実施の実現をめざす。

文化遺産・石積みの棚田と板倉による本物の癒し空間の創出

飛騨市宮川町に残る生活民俗遺産「山あいの斜面に点在する石積みの棚田と板倉群の景観」は、山間豪雪地という苛酷な環境の中で暮らしてきた人々のシンボルとして、昔の暮らしを今に伝える貴重な財産

である。

種蔵地区の文化資源を有効に活用した環境整備を行い、都会の人が農業を実践しながら一時滞在或いは期間移住を試みるグリーンツーリズムやワーキングホリデーの理念に基づいて都市から訪れる人達との交流空間を創出することによって、地域の活性化を図る。

近年、都市住民の本物志向の傾向は顕著なものがあり、人々の自然環境への関心の高まり、心の豊かさや癒し・潤いを求め、自然との共生・繋がり・回帰の傾向が強まっている機会をとらえ、全国的に珍しい石積みの棚田が持つ多面的な役割を見直し、酒米栽培やソバ栽培、板倉を利用したそば打ち、各種工房など体験学習の機会を設定することで、棚田と板倉を保全する活動につなげていくものである。

この取り組みにあたっては、新山村振興等特別対策事業の事業主体の拡充に伴うPFI事業者の参加を検討し、また、都市と農山漁村の共生・対流に関する情報提供を活用して地域における交流を促進していく。

これにより、生活感あふれた魅力ある景観を観光資源として整備・保全することで、自然と共生する人の知恵と努力の積み重ねの結晶として都市住民に対する環境教育や農業体験に最適な場となり「本物の癒し空間創出の地区」として活性化をめざす。

天生、池ヶ原、深洞の三湿原を回遊させる本物の癒し空間の創出

河合町天生(あもう)湿原はブナの原生林や天然広葉樹林に近接し、宮川町池ヶ原湿原はミズバショウやリュウキンカなどの稀少植物群生地として、また神岡町深洞(ふかど)湿原はニッコウキスゲやレンゲツツジなど高山植物が群生する手つかずの自然の中に在る湿原である。

飛騨市内にあって、それぞれ違った顔を持つ貴重な自然財産である湿原を回遊することで、都会では決して味わうことができない自然が醸し出す本物の癒し空間を体験することができる。

近年、自然志向の高まりの中で、本物の価値を体験・評価しようとする人々が増える中で、これらの資源の存在と知名度を上げると共に自然資源を見せる演出と徹底したテーマへのこだわりなど他に例を見ないプログラムメニューの展開を図り、緩やかな入山制限による環境保護を大前提に考え、誰もが安易に来訪する観光湿原ではなく、自然

に対する意識を持った人が繰り返し訪れるような湿原資源回遊を目指す。

このため「エコツーリズムに対する支援」の活用により、エコツーリズムの理念に基づく情報や資料収集を行い、交流促進のために住民等が参加した市独自のプロジェクトチームを立ち上げ、都市住民を中心とした交流市民に対してのプランづくりを行う。

この取組みにより、三湿原エリアを「自然を最大限活かした本物の癒し空間創出の地域」の実現を目指す。

匠のまちの歴史空間を活かした回遊の創出

古い街並みに代表される町家様式の和風の建物と昭和初期に建てられた近代洋風建築が点在する飛騨市古川町の市街地空間を、都市住民との交流居住の場として活用する。

伝統的な建築物のみならず「景観デザイン賞」などの奨励事業、「匠の街・アート街」や「花で街並みを飾る活動」などのソフト事業と街並み環境整備事業・克雪対策やウォーキングトレイル事業・歩行者と自動車との共存事業などの快適空間を整備するハード事業を連携させた取組みを進めてきた。日々の暮らしをそのままに残しながら生きた街並みが現在でも拡大しつつある町並み景観は、全国にも例が少ない貴重な財産である。

飛騨に残る匠の技や伝統文化を残す様々な職人を育成することにより独自の伝統技術商品を開発し、更には既存の貴重な建物を保存しながら独自の街並み景観を整備することによって歴史的空間を再生し、他地域とは差別されたやすらぎと賑わいを併せ持つ「匠のまち空間」を再生する。

この街並みを活かして、人が訪れ回遊したくなる空間を創出するため、まちづくり交付金の活用の支援措置の中で、実施可能な事業メニューを検討し、その採択・実現に向けていく。

これにより、飛騨市古川町の歴史的景観地区は「匠のまちの歴史空間を活かした本物の癒し空間創出の地域」として活性化をめざす。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的・社会的効果

膨大なデータ（情報財産）が、安心・安全な飛騨市の地下空間に集

積されることにより、国家全体の社会的な信用保障を増幅することに寄与すると共に、科学者の頭脳が集積する知的財産を活かした自然科学・基礎科学・基礎物理学のメッカとなることで、多様な個性に合わせた科学教育への振興が図られ、高レベル学力の修得により世界の最先端科学技術の発展に貢献する若い芽を育てることに寄与する。

また、棚田景観や湿原回遊、匠のまち歴史空間回遊によって本物の癒し空間を創出させ、都市と農村交流の促進によって創出される生産活動と消費による経済効果、及び市民と交流市民との対話によってお互いの魅力を楽しむ関係性を築くことに寄与する。

更にこれらの未来型施設や交流施設の整備に伴い、新サービス分野としての雇用拡大と税源涵養、地産の新特産品開発と消費拡大が見込まれ、安定した地域経済活力が生まれることが期待できる。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- (1) 11203 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置【別紙1】
- (2) 210005 新山村振興等農林漁業特別対策事業の事業主体の拡充 【別紙2】
- (3) 212028 まちづくり交付金の創設【別紙3】
- (4) 213004 エコツーリズムに対する支援【別紙4】
- (5) 230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化 【別紙5】

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組、その他関連する事業

なし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

なし

別紙 1

1. 支援措置の番号及び名称

1 1 2 0 3 「地域再生支援のための特定地域プロジェクトチームの設置」

2. 当該支援措置を受けようとする者

飛騨市

3. 当該支援措置を受けて実施又はその実施を促進しようとする取組みの内容

(1) 取り組むべき課題

飛騨市神岡町にある神岡鉱山・栃洞鉱は、様々な採掘条件に恵まれ、東洋一の規模と設備を擁して130年間にわたって亜鉛・鉛の採掘を続けてきたが、精力的な採掘活動にもかかわらず、鉱石の枯渇により平成13年6月をもって採掘が中止された。

しかし、強固な岩盤条件に恵まれた坑道と広大な地下空間、そして優れた鉱山技術が貴重な財産となって、その一部分は東京大学宇宙線研究所をはじめとする世界の最先端科学の研究施設として活用されている。

この世界に例を見ない特有資源を最大限活用して『情報』『学習』を前面に打ち出した情報データバックアップセンターや自然科学体験学習施設などの未来型施設の整備を検討している。

しかし、事業を進めていく上で、地下坑道を活用することは坑内環境基準や取水・排水制限などの規制や令達による遵守事項が複雑に関係してくるためその調整が必要となっている。また、坑内施設整備や周辺附属整備を検討していく上においてまちづくり交付金の活用や建築基準法等の規制の調整など、市単独では解決に時間を要する課題が多く、円滑な事業実施が困難である。

(2) 特定地域プロジェクトチームの設置の必要性

地下空間の遮蔽性、恒温性、恒湿性、安定性の特性を活かし、カミオカンデ、スーパーカミオカンデを完成させてきた鉱工業者（三井金属・神岡鉱業）の掘削技術ともあわせ、多様な事業の可能性の検討を始めているが、今回提案する地域再生のための特定プロジェクトは、過去において先駆的活用を受ける事例に乏しく、一地方自治体である飛騨市だけでは実施が困難であり、関係省庁の連携した指導と情報提供を受ける必

要がある。

現在のプロジェクトチームの構成案では、鉱山跡地の活用にあたっては経済産業省中部経済産業局の関係各課の協力を、まちづくり交付金の活用にあたっては国土交通省中部地方整備局の協力を、建築基準法等施設整備関係の調整にあたっては岐阜県の協力をお願いし、特定プロジェクトチームの設置を求めるものである。

(3) 取組を行うことにより達成される効果

関係各省庁や関係機関との「産学官連携」により、日本の科学技術基盤を支える情報データバックアップセンターや自然科学体験学習施設の整備と運用体制が確立され、自立した組織運営が見込まれる。

この特定地域プロジェクトチームの設置により『情報』『学習』を柱とした事業の一層の推進が図られ、「危機回避情報集積管理のまち」、「自然科学教育最先端のまち」として、他に類をみない地域の特性を活かした発展をめざす。

(4) 特定プロジェクトチーム構成(案)

経済産業省 中部経済産業局 関係各課

国土交通省 中部地方整備局

岐阜県

教育機関

鉱工業者

賃貸ビル業者

建設関係業者

地権者

飛騨市

実施主体

別紙 2

1. 支援措置の番号及び名称

210005 「新山村振興等特別対策事業の事業主体の拡充」

2. 当該支援措置を受けようとする者

飛騨市

3. 当該支援措置を受けて実施又はその実施を促進しようとする取組みの内容

飛騨市宮川町に残る生活民俗遺産「山あいの斜面に点在する石積みの棚田と板倉群の景観」という文化資源を有効に活用した環境整備を行い、都会の人が農業を実践しながら一時滞在或いは期間移住を試みるグリーンツーリズムやワーキングホリデーの理念に基づいて都市から訪れる人達との交流空間を創出することによって、地域の活性化を図っていく。

この取組みにおける施設の整備にあたっては、建設・管理を効率的かつ効果的に行うため、PFI法の手続きを経た民間事業者の参加を検討していく。

これにより、生活感あふれる魅力ある景観を観光資源として整備・保全することで、自然と共生する人の知恵と努力の積み重ねの結晶として都市住民に対する環境教育や農業体験に最適な場となり、「本物の癒し空間創出の地区」として活性化を目指す。

別紙 3

1. 支援措置の番号及び名称

212028「まちづくり交付金の創設」

2. 当該支援措置を受けようとする者

飛騨市

3. 当該支援措置を受けて実施又はその実施を促進しようとする取組みの内容

快適で暮らしやすい住環境及び生活基盤整備、飛騨らしい魅力ある歴史空間を形成し、自立する持続可能な次世代のまちづくりのためには、地域住民や来訪者に快適な都市空間を提供するため、駅前広場や橋梁の修景、電線類地中化を推進することが必要である。

このため、平成17年度からまちづくり交付金を活用した飛騨市古川地域及び神岡地域のまちづくりを検討していく。特に中心市街地における人々の交流や生活の拠点としての商業空間が求められていることから、中心市街地を重点とした諸事業の導入を検討するものである。

別紙 4

1. 支援措置の番号及び名称

213004「エコツーリズムに対する支援」

2. 当該支援措置を受けようとする者

飛騨市

3. 当該支援措置を受けて実施又はその実施を促進しようとする取組みの内容

飛騨市河合町天生湿原、宮川町池ヶ原湿原及び神岡町深洞湿原を結ぶコース設定や地域宿泊につなげるプランニング、インタープリター育成などソフトの開発に重点を置きながら、飛騨市特有の自然や文化を全国に発信し、観光と地域の振興を目指すエコツーリズムの普及をめざす。

このため、地域住民等が参加した市独自のプロジェクトチームを設置し、都市住民を主体としたエコツーリズムを行うためのプランづくりを行う。このエコツーリズムの推進にあたっては、支援措置による情報提供を活用していく。

併せて古川の歴史的街並み、宮川種蔵地区や数河・流葉高原、山之村地域など飛騨市の大自然を全国に情報発信し、観光誘客の増大に努める。

また、多様化する観光ニーズに対応するため、既存観光施設の魅力向上に努めると共に、スポーツ合宿地としてのハード、ソフト両面の基盤整備や飛騨市の特性を活かした体験型学習施設の整備を検討していく。

さらに魅力あるイベントの通年開催や農林畜産業と連携した都市住民との交流事業やグリーン・ツーリズムの展開、飛騨市の自然や宇宙科学、伝統文化を活かした学習村構想の推進をはかり、交流による飛騨市の観光振興に取り組む。

別紙 5

1. 支援措置の番号及び名称

230004 「都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化」

2. 当該支援措置を受けようとする者

飛騨市

3. 当該支援措置を受けて実施又はその実施を促進しようとする取組みの内容

飛騨市宮川町種蔵地区の生活文化財産・石積みの棚田と板倉が有する美しい景観、豊かな自然や食文化、伝統工芸など農村滞在型余暇活動の促進をはかりながら、都市と農村間でお互いの魅力を楽しむ関係構築を構築する。

このため、この支援措置により、都市と農村の共生・対流の促進のための情報や資料収集を行い、市、事業者、法人、地域住民等が参加した市独自のプロジェクトチームを設置し、都市と農村の共生・対流の促進を図るグリーンツーリズムを行うためのプランづくりを行う。

併せて古川の歴史的街並み、天生・池ヶ原湿原や数河・流葉高原、山之村地域など飛騨市の大自然を全国に情報発信し、観光誘客の増大に努める。

また、多様化する観光ニーズに対応するため、既存観光施設の魅力向上に努めると共に、スポーツ合宿地としてのハード、ソフト両面の基盤整備や飛騨市の特性を活かした体験型学習施設の整備を検討していく。

さらに魅力あるイベントの通年開催や農林畜産業と連携した都市住民との交流事業やグリーンツーリズムの展開、飛騨市の自然や宇宙科学、伝統文化を活かした学習村構想の推進をはかり、交流による飛騨市の観光振興に取り組む。